慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	ビジネスチャンス多角化 - 新規事業探索のアプローチ -
Sub Title	
Author	谷本肇(Tanimoto, Tadashi) 矢作恒雄
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1988
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1988年度経営学 第622号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001988-0622

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

No. 0622

学生氏名　谷本　肇　　主査　矢作恒雄

副査　和田充夫

所属ゼミナール　矢作恒雄研　　青井倫一

ビジネスチャンス多角化
— 新規事業探索のアプローチ —

本研究に於いては、「多角化の成功に於いては、まず第1に魅力あるビジネスチャンスを見つけ出し、第2のステップでそのチャンスを物にするためにはどうして行けば良いかを、自社の経営資源、競争要因を基に考えて良いビジネスチャンス多角化の考え方が、多角化を有利に展開する上で効果的である。」という第1次仮説を設け、それを新日鉄・三菱重工・味の素・キリンビールの4社の事例分析によって裏付けをした。そして理論研究・事例研究のまとめとして第2次仮説の提示という形で新たな問題提起を行い結論とした。

本論文の成果として、以下の論点があげられる。

・近年に於ける労働市場、金融市場、M＆Aの市場の大幅な活性化により、企業に取って経営資源の積極的な外部調達が可能となった。この変化により、今までは非常に困難と考えられていた非関連分野への多角化が可能となった。

・自社の手持ちの経営資源に過度に注目すると、自社の事業を狭く定義してしまい、目の前にあるビジネスチャンスを逃し、絶好の多角化の機会を逃す危険性がある。

・多角化戦略成功のためには、参入市場に於て、顧客に受け入れられる形で競合企業に対して差別化をする必要がある。その差別化の源泉となるのが経営資源であるが、上で述べたような経営環境に於いては、単に「持っていること」のみでは差別化は不可能である。経営者は自社経営資源の中で、他社が真似できない（調達できない）ものは何か、を見極める必要がある。

・「市場関連多角化」「技術関連多角化」という概念はいく通りもの解釈が出来、実務家に取って指針とはなりにくい。一歩進んだものとしてそれぞれが得意とする戦略パターンを新規参入先にも応用する「戦略関連多角化」の考え方があげられる。